

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力を充実し、確かな学力の定着を図る。 ②学科併置の特色を活かし、学びの楽しさを実感できる学習活動を展開する。	①基礎学力の定着をめざすための学習内容・方法を追究する。 ②学科併置の特色を活かしたハイブリッドなカリキュラムを構築する。	①学習指導要領の精神を活かした授業づくりとICT関連の整備をすすめる。 ②両学科の生徒が共に学ぶことのできる学習内容の充実を目指す。	①基本的な知識を身につけ、思考力を高める授業が展開できたか。ICTの有効な活用がなされたか。 ②学科併置の特色を活かして工夫された教育活動を実践できたか。	①約8割の生徒が基本的な知識を身につけ思考力がついたと考えていることから目標は概ね達成できていると思われる。 ②学科併置の特色を活かした学習が展開されており、目標は概ね達成できている。	①約10～15%の生徒が基礎学力の定着に不安を感じている。この生徒の支援することで改善を目指す。 ②生徒及び教師の移動に関する課題。決定的な改善策は現時点で模索中。	①生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力の充実に向けて一人一台端末の有効的な活用に向けて授業研究会などを行いながらよく取り組んでいる。 ②学科の壁を越えた学習活動を展開していることは、併置校の特色が出ている。	①一人一台端末の利活用については学校全体で取り組み成果を上げてきている。基礎学力の充実に向けて職員全体のスキルを上げることが課題である。 ②学科併置の特色を生かした教育活動について一部の科目及び総合的な探求の時間等で学科を超えた学習活動が展開できた。	①一人一台端末の利活用による基礎学力の充実に向けた研修会の定期実施により職員のスキルアップを図る。 ②学科併置の特色を活かして工夫された教育活動の実践に向けてより一層取り組む。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図り、支援の視点を生かした生活指導に取り組む。 ②幅広い教育活動の機会を活用し、コミュニケーション能力及び自己有用感の育成を図る。	①問題行動未然防止と発生後の速やかな対応、指導の充実に努める。 ②感染防止対策を継続しつつ、生徒主体の行事運営等を通して、コミュニケーション能力及び自己有用感を向上させる。	①個に応じた支援や指導を行い、規範意識を育てる教育活動を行う。 ②感染防止対策を行いながら、行事の準備等、生徒が主体的に関わる機会を増やせるよう指導・支援体制を構築する。	①問題行動や個に応じた支援や指導の計画、実施ができたか。規範意識の向上ができたか。 ②行事を通して充実感、主体性・実行力・コミュニケーション能力などの向上をアンケート等で確認できたか。	①問題行動発生時の速やかな対応と指導を行い、年度当初と比較し落ち着いた学校生活となった。 ②体育祭・文化祭・球技大会の行事への主体的に取り組みを通して、達成感、自己有用感を実感させ、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。	①規範意識向上に向けて、SHR等で注意喚起を行っているが、粘り強い指導が必要である。 ②行事に関して生徒が主体的に企画・運営に関われるよう指導し、サポートデスクなどを活用し教育相談体制を充実させる。	①問題行動の未然防止と発生後の速やかな対応に向けて学校全体で取り組んでいる。 ②感染防止対策を継続しながら学校行事の活性化を図り、体育祭・文化祭・球技大会等を積極的に取り組ませる工夫を行った。	①指導と支援の連携により、問題行動への速やかな対応ができてきている。今後も支援的な対応を含めた指導が課題である。 ②体育祭の実施など、学校行事の活性化が図れた。今後は、生徒主体の取組を充実させることが課題である。	①校内研修を定期的に行い、生徒理解・支援を意識した指導の充実に結び付けていく。また、サポートデスクの有効活用に向けて組織的に取り組む。 ②学校行事をより一層充実させ、生徒の人間的な伸長が図れるように教職員の指導・支援体制を構築する。
3	進路指導・支援	①地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成に向けて、生徒が自ら目標を設定し主体的に取り組むことのできる進路指導の充実を図る。	①自分が希望する進路実現に向けて、生徒自身で自ら考え見つけ直す機会を設定し、3年間継続した進路実現計画を構築する。	①全学年共通の進路アンケートを年2回(5月/10月)実施し、3年間継続した進路実現に向けてキャリアパスポートを利用して計画的に行う。また、インターンシップや職業体験を積極的に活用する。	①全学年で年2回進路アンケートに併せてキャリアパスポートを活用した指導を計画的に実施できたか。職業観の醸成に向けて、インターンシップや職業体験を多くの生徒が参加したか。	①全年次において、進路アンケートを年2回実施することができた。また、その中より本校在校生の特徴的な行動等を見ることができた。インターンシップについては、例年より若干参加者が減る状況ではあったが、各参加者にとっては内容等が充実したものであった。	①全年次においての進路アンケートの実施が1年目であり、継続的に進路や学習に関する本校の状況を判断する材料としていきった。	①自分が希望する進路実現に向けて、キャリアパスポートの活用や進路アンケートの定期的な実施等、継続的な指導を実践し、成果を上げた。	①キャリアパスポート等を活用し、各年次ごとに年間を通じた計画的なキャリア支援を行い、進路意識を向上させることができた。進路意識の向上に加え、組織的な進路指導の充実に課題がある。	①小、中学校のキャリアパスポート活用も含め、高校3年間を見通した継続的な進路指導計画の策定を引き続き行い生徒の進路意識の向上と希望進路実現を図る。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①地域の特性を理解し、地域とのかかわりを持ち貢献することで、自己有用感・自己肯定感や社会性を育む。 ②地域の教育力を教育活動に活かす。	①地域とのかかわりを持ちながら積極的に貢献活動を行い、HP等での情報発信を充実させ、生徒の活動の場を広げる。 ②地域の教育力を活かした取り組みを実施する。	①HP等を活用した情報発信を通して、本校の活動を広くアピールする。 ②地域連携活動としての「産農人」「依託実習」「農業体験」を発展させ、引き続き充実させる。	①地域に関連する活動を幅広く発信できたか。また、HPの充実を図ることができたか。 ②「産農人」「依託実習」「農業体験」に生徒がどれだけ参加できたか。活動の内容や成果の状況。	①学校HPを充実させ、情報発信をより積極的に行えた。さらに、学校のInstagramを開設し、より広い範囲に情報発信を行うことができた。 ②「産農人」など充実した地域連携活動が行われ、メディア等に取り上げられた。生徒の成長に大きく影響した。	①学校HPを充実させ、情報発信をより積極的に行う。さらに、学校のInstagramを活用し、より広い範囲に生徒の活動などの情報発信を行う。 ②学校独自の商品・ブランドの開発等を確立するために、専門家の意見を取り入れた活動を継続していく。	①HPの充実に向けてよく取り組み情報発信によく取り組んでいる。また、Instagramなどの活用で中学生や保護者が気軽に見ることができる工夫も行った。 ②「産農人」など充実した地域連携活動を行い地域の教育力を活かした取り組みを実施した。	①「産農人」プロジェクトの継続と学校内外の活動に関して、ホームページにより効果的な情報発信ができた。また、より容易に情報閲覧できるようにInstagramの導入も行った。 ①校内外の情報発信の充実に向けて、職員のスキルアップに努め、コンテンツ管理システム(CMS)やSNSの操作研修会の実施を含めて組織的に取り組んでいく。 ②「産農人」など充実した地域連携活動を行うとともに、より一層、「依託実習」「農業体験」の充実を図る。	
5	学校管理 学校運営	①両キャンパスの環境や連絡・防災体制を整備し、安心安全で信頼される学校づくりをする。 ②生徒にとって生き方となるようなワークライフバランスを充実させる働き方を実現させる。	①様々な災害を想定した避難訓練を通して、両キャンパスの防災体制を構築する。 ②働きやすい環境づくり・業務の効率化を進め、ワークライフバランスを意識した心身ともに健康で安全・安心な働き方を追求する。	①キャンパス・両学科合同の避難訓練を実施し、それぞれ防災体制の理解と防災意識の向上を図る。 ②業務の精選や業務分担の見直しを進め、ワークライフバランスの意識を高める。月2回の定時退勤日は継続的に実施する。	①両キャンパス・両学科合同の避難訓練が実践できたか。教職員・生徒の防災体制の理解と防災意識が向上したか。 ②長時間勤務の職員が少なくなったか。職員の健康状態が向上したか。	①両キャンパス合同の避難訓練を実践し、教職員・生徒の防災体制の理解と防災意識を向上させることができた。 ②時間外勤務削減のために、毎月2回の定時退勤日を設定し、ワークライフバランスの見直しを図り、定時退勤の習慣と仕事の効率化を意識づけることができた。	①定期的に両キャンパスを行き来する生徒・職員もいるので、様々なタイミング・状況での実践的な避難訓練を行う必要がある。 ②定時退勤の意識は高まってきたが、全職員が計画的に仕事を進められるように、会議・行事の予定を早く周知できるようにする。	①両キャンパス合同での地震津波、火災に向けた避難訓練を実施できたことは評価できる。 ②定時退勤日の取組は評価できる。教員の長時間勤務は社会問題になっているので、今後も偏りのない業務分担等に管理職を中心に努めてほしい。	①入江キャンパス内全学年同時の避難訓練の実施ができた。 入江・和田両キャンパスの避難訓練の同時実施に関しては、安全確認等の情報把握に関しての連携の在り方について検討する必要がある。 ②定時退勤日の実施により、働き方改革への意識が高まり、効果は出てきている。一部の教員に業務が集中するケースを解消することが課題である。	①大規模地震による津波対策等について、PTAや地域住民、消防署等と連携し、正しい情報伝達や指示の方法について検討し、生徒が安全に避難できるよう職員が共通意識のもと誘導や指導ができるようにする。 ②定時退勤日の取組は継続し、職員の業務分担等を見直し、働き方改革への意識を高ま、業務の効率化と均等化を図る。